

両沼地方稲作情報 第4号 【雑草対策・初期管理】 令和8年5月8日

発行：福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所 (電話0242-83-2113)
// 金山普及所 (電話0241-54-2801)

J A 会津よつば 各営農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店、(有)山一米穀店、
会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区、袋原土地改良区



← 会津坂下農業普及所のHPでは、これまで発行した稲作情報を掲載しております。
その他、様々な情報を発信しておりますので、お気軽にご覧ください。

○除草剤を適期に散布し、雑草の”取りこぼし”を防ぎましょう。
○土壌還元（ガス湧き）による障害に注意しましょう。

1 1か月予報（5月9日～6月8日、仙台管区气象台発表）

・期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。平均気温は、高い確率（70%）で平年を上回ると予想されています。また、降水量および日照時間は、いずれもほぼ平年並みとなる見込みです。

2 雑草対策 ※必ず使用時期、使用方法、対象草種・葉齢をラベル等で確認しましょう

・雑草の繁茂は稲の生育を抑制し、また一部雑草（ノビエ・ホタルイ等）は斑点米カメムシ類を誘引し、出穂後の吸汁による落等の原因となります。除草剤を効果的に選択・使用するためには、イネ科、カヤツリグサ科、広葉雑草等の発生草種を把握し、適期に除草剤を散布することが大切です。

・近年、春先からの高温により雑草の発生が早まっています。最も生育が早い雑草の葉齢を基準に散布して、“雑草の取りこぼし”を防ぎましょう。一方で、低温の場合は、雑草の発生がばらつく傾向があるため、植代から田植えまでの期間が1週間以上に及ぶような長い場合は初期剤の散布を検討しましょう。

除草剤による早期防除が重要です！

(1) イネ科雑草（ノビエ等）防除の注意点

- ・除草剤によって防除可能なノビエの葉齢が異なります（例えば「移植直後～ノビエ2.5葉期」のように）。
- ・初中期一発処理剤を散布する場合は、適用時期の範囲内で、できるだけ早く散布します。特に、直播栽培ではイネより早く出芽し、生育が旺盛になるため、注意が必要です。
- ★ノビエが生えてきたのを確認してからでは手遅れの場合があります。（図1）
（例えば、確認できたノビエの葉齢が2葉期の場合でも、ほ場全体としては3葉期のノビエが存在する可能性があります）。

(2) カヤツリグサ科雑草（ホタルイ等）防除の注意点

- ・ホタルイの種子は小さく、農業機械等に付着して地域のほ場に拡散する場合があります。
- ・耕耘や代かきの作業は、ホタルイが多発したほ場を後回しにしたり、作業機械を丁寧に掃除する等、地域の発生源とならないように、種子の拡散を防止しましょう。
- ・一発処理剤使用後も休眠種子から発生するため、前年発生が多かったほ場では、中・後期剤も体系的に使用して防除しましょう。（図1）

(3) 広葉雑草防除の注意点

- ・平たく幅広い形をした葉身をもつ雑草のことで、コナギ、アゼナ類、塊茎を土中の深いところに形成するオモダカ等があります。
- ・一回の除草剤散布で完全に防除することが難しい特徴があります。前年発生が多かったほ場では、中・後期剤も体系的に使用して防除しましょう。

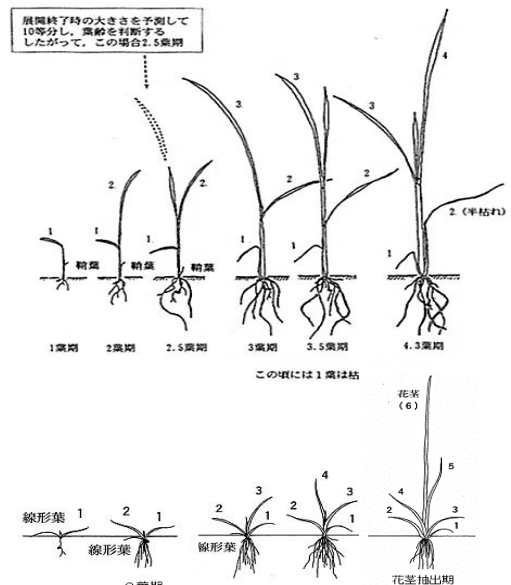


図1 ノビエ(上)及びびい奴ホタルイ(下)

(4) 除草剤が効果を発揮するために

- ア 田面を均平に整え、漏水防止（畔塗りの実施、2回代かき）に努める。
- イ 雑草の種類・葉齢をよく確認して、適期に散布する。
- ウ 湛水散布の場合はしっかり水管理する。

【湛水散布の水管理】

- ・散布直後に田面水が流れ出ると効果が低下し、残効期間も短くなります。
- ・散布前にしっかりと湛水し、水口・水尻をきちんと止めて除草剤を散布します。
- ・散布後少なくとも4～5日は湛水状態を維持し、散布後7日間は落水しないようにします。
- ・漏水田において水を足す場合、処理層に影響しないよう静かに入水します。

※ほ場に生えている雑草の種類・葉齢をよく確認し、効果が見込める除草剤を選択して、適切な時期・方法で使用しましょう。

- 近年、多くの水田で土壌表層が剥離し、水面に浮かぶ**表層剥離**が見られます。
- 表層剥離が多いと、幼苗の消失、除草剤成分の拡散を妨げる等の影響が出る場合があります。また、湛水直播栽培では、表層剥離がイネ種子を水面に浮かび上がらせるなどして、苗立ち不良や倒伏などの原因となる場合があります。
- 一時的に落水し田面を干す、活着後浅水で管理する、藻類に効果のある除草剤（モゲトン粒剤や先陣1キロ粒剤（初期剤）等）を散布する等により対策しましょう。

3 いもち病対策

会津での葉いもちの初発は6月下旬です。移植時の箱処理剤や散布剤等で適切に防除しましょう。また、感染源となる補植用置き苗は早急に処分しましょう（図2、埋却する等）。



図2 置き苗から発生したいもち病

4 土壌還元（ガス湧き）について

(1) メカニズム

- ・湛水後、気温が急上昇し高温が続くと、鋤込まれた稲わら等の有機物が分解され、有機酸や硫化水素、メタンガス等が発生します（“ガス湧き”した状態）。
- ・ガス湧きした状態では、根は酸欠で呼吸が阻害され、水分や養分を十分に吸収できません。
- ・根はダメージを受けて根腐れし、放置すると腐敗、分けつ停止、生育遅滞、登熟期以降の秋落ちの原因にもなります。
- ・稲体が弱ることで、除草剤の薬害を受けやすくなります。

※土壌還元により葉色が淡くなりますが、この時に窒素分を追肥すると症状悪化の原因となります。

(2) 発生時の対策

- ・除草剤の散布時期を確認の上、すぐに落水して3～5日ほど水田を干します。
- ・同時に数メートル間隔に溝切りを行い、表面排水を図るとより効果的です。
- ・これによりガスは空気中へ飛散します（水があるとガスが抜けにくい）。
- ・落水によって土壌中へ酸素が入り、土壌環境が改善されます。

※その後は入水し、有効分けつ確保までは浅水管理を基本とします。

○今年も高温が予想されます。しっかり水分補給し、熱中症に注意してください。

○適切な管理により節水に努め、用水の有効利用にご協力をお願いします。

農作業安全運動実施中！

春季3/1～5/31

安全な農作業を
心掛けよう！

